

## 教員養成の目標及び目標を達成するための計画（中高専修課程）

### 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組(中高専修課程)

本学における教員養成の理念・構想は、本学の建学の精神、とりわけ創立者たちの教育実践に深く依拠している。

本学園の創立者である清水安三、郁子夫妻は戦前・戦中において、中国・北京で崇貞学園を経営していた。崇貞学園は貧困のため、安価で貞操を売る中国の女子に無料で文字と生活の技術を教えるために、1918年に設立した学校であった。戦時下にあつては朝鮮人を積極的に受け入れ、中国、朝鮮、日本人を対象とした極めて国際的で、キリスト教的人道主義に立った教育を実践し、今もそれを継承している。

敗戦により清水夫妻は日本に引き上げたが、日本再建のため教育による人材養成を願い、再び北京での教育を復活すべく、本学園を1946年創設した。清水夫妻は本学園創立以来常に教学の第一線にたち、教育を通じて国際的平和を実現する人材の育成にその生涯をささげた。清水夫妻を含め、創立者たちの人材養成に対する関心は高く、その当然の帰結として教職課程を設置し、清水郁子自ら教職科目を担当するなどして本学の教員養成において、建学の精神が浸透するよう精力的に指導した。このように、本学は創立者たちの教育理念、実践を礎とし、教育活動を通じて人格の尊重と社会の平和を志向する教員の育成をその伝統としてきた。

また、本学はその建学の理念から障がいのある学生を早くから受け入れてきたが、これらの学生の中でも教職を希望する学生がおり、その指導も積極的に行き、現在教員として活躍している者もいる。さらに、海外で教職についている卒業生も少なくない。

本学の教員養成課程を修了した者は、ただ単に当該教科の専門性のみならず、幅広い知識とキリスト教教育により裏付けられた高い倫理観と公共性を備え、併せて課題探求能力にも優れており、社会の複雑な諸問題にも対応できる資質の高い教員として、活躍できるであろう。

こうした多様な教員の人材の輩出こそ、本学の教員養成の理想であり、目標としているところである。

上述の目標を達成するため、大学院における教職指導は大学院教務課程検討委員会が担っている。教員養成機能の充実・強化に資する教育研究体制の向上を目指し、必要に応じて大学院教務委員会と連携を図りつつ、取り組みを行っている。

大学院の教職課程においては全科目が選択科目となっているため、個々の科目の質が問われることになる。これについては、毎学期の終わりに「授業評価アンケート」を実施することにより、実際に授業を履修した学生たちの声を吸い上げて担当教員にフィードバックしている。所属長が確認してコメントする仕組みになっているが、公開前のシラバスを所属長がチェックする制度と併せ、授業科目の質の保証と向上に一役買っている。

学修環境としては、学士課程生と共用の図書館本館は別に、大学院生専用の共同研究室が4室あり、事典、辞書、新聞雑誌、基本図書、さらにパソコン等を用意している。四谷キャンパスにおいても、小規模であるが図書室を整備し、専門分野の図書を配架することにより自習環境を整えている。

以上